

# 歯学部のカリキュラム

コア・カリキュラム  
(65%)

## 1年次

教養教育で幅広い教養を身につけ、さらに専門教育の入門として細胞生物学の基本を学びます。

前期

後期

### 教養教育

早期体験実習

歯学展望

解剖学(骨学)

歯科医師のコンピテンシー

etc



## 2年次

教養教育の履修のほか、歯学領域の基礎科目を学びます。

前期

後期

### 教養教育

解剖学

発生学

組織学

生理学

生化学

歯科理工学

etc

講義及び実習



## 3年次

歯学領域の基礎科目(本学独自の科目を含む)の履修のほか、歯科医師として必要な全身の医学を学びます。博士(歯学)の学位取得を前提とする歯学研究コースを選択した場合は研究の基礎知識・基本手技も学びます。

前期

後期

### 教養教育

病理学

微生物学

薬理学

口腔解剖学

口腔組織学

etc

講義及び実習

Scientific and Practical English

コミュニティー教育・実習

歯科東洋医学

### 教養教育

口腔生理学

口腔生化学

歯科理工学実験

口腔病理学

口腔微生物学

歯科薬理学

医学統計学

衛生学

etc

講義及び実習

関連臨床医学 (内科学、外科学、隣接医学等)

基礎歯学研究概論

基礎歯学研究

歯学研究コース

## 大学院進学の特長

長崎大学には大学院医歯薬学総合研究科があり、博士課程は原則4年です。この4年間で得た高い知識と技術は、学部教育の6年間で得た基礎的な知識と技術とは根本的に異なります。全国的にも注目されている「がん医療に携わる専門医養成コース」があり、また、「摂食嚥下リハビリテーション」など特色あるカリキュラムも開設されます。大学院教育で得た高い知識と技術は質の高い歯科医師の

養成に直結しており、指導的役割を担う質の高い歯科医師として活躍の場が広がります。なお、歯学部の博士(歯学)の学位取得を前提とする歯学研究コースを選択して長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(歯学系)に進学した場合には、独自の基準による3年次早期修了の道が開かれています。

大学院進学者は原則としてすでに歯科医師として登録されていますので、勤務

しながら学ぶことが可能です。一般大学院生の場合は、指導教員(主任教授)の教育方針によりますが、学業に支障を来さない程度(一般におおよそ週に1回程度)で歯科医師として働きながら学ぶことも可能です。また、長崎大学には社会人大学院の制度があり、この場合は歯科医師として医療施設で働きながら余裕のある時間に大学に通って博士(歯学)の学位を取得することが可能です。

独自カリキュラム  
(35%)

4年次

歯学領域の臨床科目の履修のほか、専門教養科目として基礎的な臨床歯科英会話を学びます。博士(歯学)の学位取得を前提とする歯学研究コースでは臨床研究の基礎知識・基本診療技術も学びます。



5年次

4年次までに身につけた歯学および医学知識をもとに、統合科目(本学独自の内容、Problem-Based Learningを導入)で各分野の枠組みを越えて疾患に関する総合的な判断力を養成します。博士(歯学)の学位取得を前提とする歯学研究コースでは、さらに少人数指導のもとで基本的な研究を体験します。後期から臨床実習が始まります。



6年次

本格的な診療参加型臨床実習(本学の特徴)を開始するとともに、歯科医師国家試験の準備をします。博士(歯学)の学位取得を前提とする歯学研究コースにおいては、指導教員とともに優れた成果を出せば学会発表を行うことも可能です。



卒業

国家試験

歯科医師

卒後教育

大学院生

大学院博士課程(4年)進学

修了 博士(歯学)

臨床研修医(原則1年)

A 歯科医師として 医療施設に就職  
(個人開業医、総合病院等)

B 歯科医師、博士(歯学)として 医療施設、行政分野に就職

C 歯科医師、博士(歯学)として 大学、研究機関に就職  
(大学教員等として歯科医療、研究および教育に従事)

大学で高い知識と技術を身につけた後に、医療施設に就職または個人歯科医院を運営することも可能

※博士(歯学)は、一般的に歯学博士と呼ばれる学位です。※大学教員になるには、原則として博士の学位が必要です。